

【 バックアップ機能を利用して復旧する方法について 】

バージョン2.04.00.00から、プレクストークプロジェクトファイル()を自動的にバックアップする機能を追加しました。バックアップを利用することで、図書を開こうとした際に警告画面が出るなど、万が一、正常に開けなくなってしまった図書を、前の状態に戻すことができます。

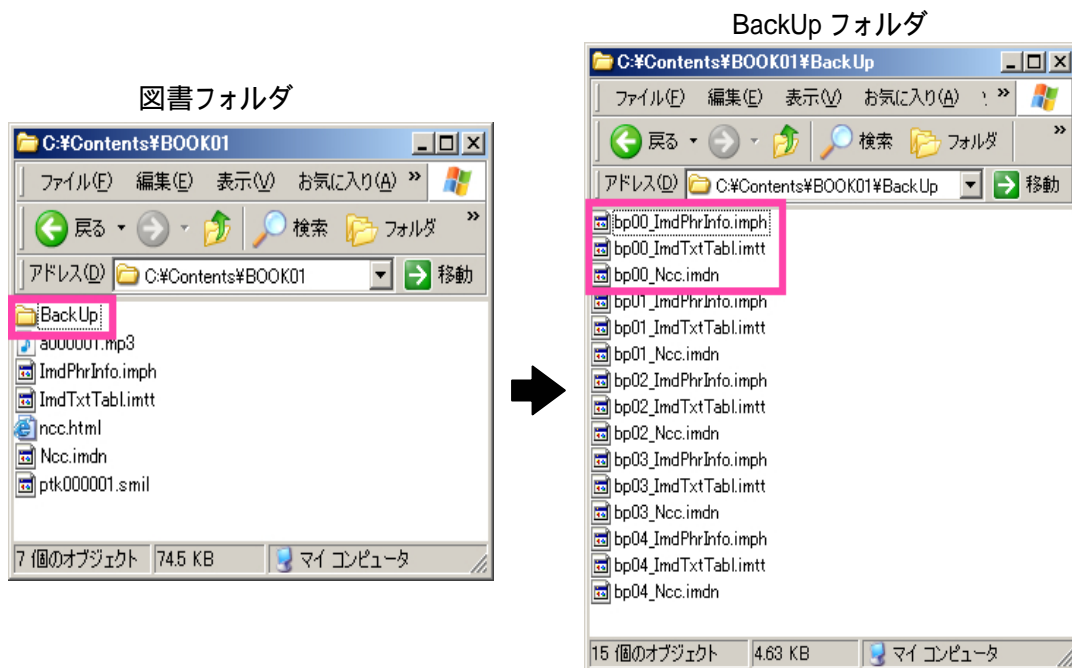
プレクストークプロジェクトファイルとは ImdPhrInfo.imph、ImTxtTabl.imtt、Ncc.imdn の3つのファイルで構成されており、図書の情報(セクションやフレーズの情報)が保存されています。

データ破壊の状況により修復できない場合がありますので予めご了承ください。

修復方法について)

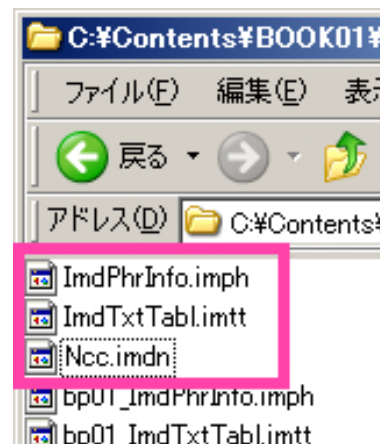
復旧作業を実行する前に、必ず対象の図書フォルダを別の場所にバックアップしてください。

修復を行う図書フォルダの中にある、「BackUp」という名称のフォルダを開きます。



フォルダの中に、bp00_ImdPhrInfo.imph、bp00_ImTxtTabl.imtt、bp00_Ncc.imdn という3つのファイルがありますので、それぞれについて次のようにファイル名を変更します。(いずれも先頭から5文字を削除します)

変更前	変更後
bp00_ImdPhrInfo.imph	ImdPhrInfo.imph
bp00_ImTxtTabl.imtt	ImTxtTabl.imtt
bp00_Ncc.imdn	Ncc.imdn



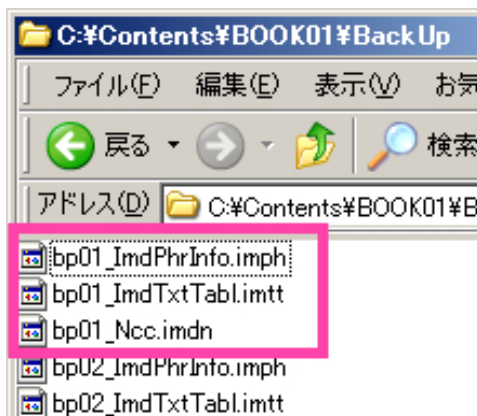
ファイル名を変更した3つのファイル lmdPhrInfo.imph、ImTxtTabl.imtt、Ncc.imdn を、図書フォルダ内に、上書きコピーします。

PRS Pro を起動して、修復した図書を開きます。ここで警告画面が表示されなければ修復されたこととなります。

上記の手順で修復できない場合には、続けて以下の作業を行います。

BackUp フォルダ内の、lmdPhrInfo.imph、ImTxtTabl.imtt、Ncc.imdn を削除します。

bp01_lmdPhrInfo.imph、bp01_ImTxtTabl.imtt、bp01_Ncc.imdn という3つのファイルがありますので、それぞれについて次のようにファイル名を変更します。(いずれも先頭から5文字を削除します)



変更前	変更後
bp01_lmdPhrInfo.imph	lmdPhrInfo.imph
bp01_ImTxtTabl.imtt	ImTxtTabl.imtt
bp01_Ncc.imdn	Ncc.imdn

ファイル名を変更した lmdPhrInfo.imph、ImTxtTabl.imtt、Ncc.imdn を、図書フォルダ内に、上書きコピーします。

PRS Pro を起動して、修復した図書を開きます。ここで警告画面が表示されなければ修復されたこととなります。

上記の手順を実施してもまだ修復できない場合には、bp02_***ファイル、bp03_***ファイル、bp04_***ファイルに対して同様な作業を行います。

バックアップの仕様について)

プレクストークプロジェクトファイルは、PRS Pro を起動し、図書を開くタイミングで、図書フォルダの「BackUp」フォルダ内に名前を変えてバックアップされます。

バックアップは過去5回分が保持され、最も新しいファイルの先頭5文字が「bp00_」に、最も古いファイルの先頭5文字が「bp04_」になります。